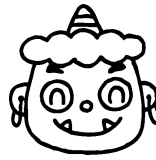




ひよこだより



都立葛飾ろう学校 乳幼児教育相談

令和5年2月1日 NO. 10

絵本とともに

先日は、10年に1度と言われる寒波に、都内でも厚い氷が張りました。まだまだ凍える日々が続いていますが、節分を過ぎれば立春です。暦の上では、春が着々と近づいています。子どもたちと一緒に豆まきをして、今年の無病息災を願いつつ元気に過ごしましょう。

さて、先月の保護者教室は、しゅわえもんのスタッフの方々による絵本の読み聞かせのワークショップでした。手話による読み聞かせでは、「ロールシフト」と言って、視線や顔、体の向きによって、登場人物を区別して表現します。ワークショップでは、主にこのロールシフトを意識した表現方法について学び、グループごとに1冊ずつ絵本の読み聞かせに取り組みました。スタッフの方々のアドバイスを受けながら、よりわかりやすく、より豊かに表現する方法を練習し、最後には読み聞かせを発表していただきました。どのグループの保護者の方々も、1時間ほどのワークショップの間に、どんどん読み聞かせが上達していき、絵本の世界を表現する楽しさを実感していただけた保護者教室になりました。



●心の栄養

聞こえる・聞こえないに関わらず、子供の成長にとって絵本のある時間はとても大切なひとときです。絵本の世界の豊かさが子供の心を刺激して、言葉を覚えたり、興味・関心を広げたりする機会になるわけですが、それだけでなく、お父さん・お母さん等、大好きな大人と一緒に過ごす楽しい絵本の時間は、子供にとって「自分は守られている・愛されている」ということを感じられる貴重な時間です。こうした安心感が、より成長した時に自己肯定感を育み、生きる喜びと生きる力につながっていくように思います。愛情表現は他にもたくさんありますが、大人も一緒に絵本の世界を楽しみながら、子供に心の栄養をたっぷりとあげられる絵本の時間を大切にしてほしいと思います。

●絵本の読み聞かせ方

それでは、絵本の読み聞かせが聞こえない・聞こえにくい子供たちにとって、よりわかりやすくなる工夫を確認しましょう。

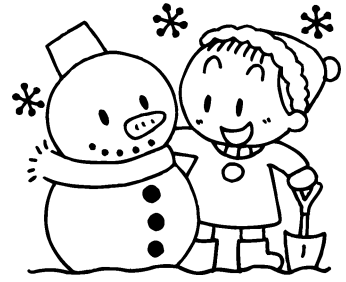
まずは、絵本と子ども、大人の位置関係についてです。小さい子供たちへの絵本の読み聞かせというと、よく大人のひざの上やあぐらの中に子供が座り、子供の頭の後ろから大人が読んで聞かせるスタイルが多いかと思いますが、聞こえない子供たちにとっては、こ

れでは大人が何を話してくれているのかわかりません。また大人にとっても、子供が絵本のどこを見ているのか視線が見えず、子供に合わせた語りかけができません。子供と大人は対面で座り、大人の顔の高さと同じくらいの位置に絵本台を置いて、そこに絵本を乗せて読み聞かせしましょう。そうすることで、子供は絵本も大人の手話や表情、口形等も、同時に見やすくなるので、コミュニケーションが取りやすくなります。絵本台は、100円ショップ等でも売っていますから、1つ持っていると



よいと思います。

そして次に気を付けるのは、声をかけるタイミングです。聞こえない子供たちには、絵本の絵をじっくり見て、そこに描かれている内容を理解する時間が必要です。聞こえる子供たちは、絵を見ながら読み聞かせを聞くことができますが、曖昧な音声を聞きながら見る、絵を見ながら手話も見るといったことが難しいのが、聞こえない子供たちです。読み聞かせる大人は、子供がじっくり絵本を見た後に、自分の方を見たタイミングで語りかけるのがよいでしょう。



ただ、子供が0～1歳のうちはなかなか大人が思うように絵本を読み聞かせることが難しい時期かもしれません。この頃の子供たちにとっては、絵本はまだおもちゃの1つで、舐めたりかじったりしたいことも多いですね。また絵本のストーリーを追うというよりは、順序は関係なく開いたページを楽しんで、途中で本を閉じてしまうこともよくあります。このような時期は、しつこく深追いせず、子供の興味や気持ちに合わせて関わるのが大切です。自分が興味を持ったものに、タイミングよく声をかけてくれる関わりがあれば、自然と子供は絵本と大人を交互に注目することが増えていきます。絵本に限らず、日々の生活の中でのコミュニケーションを大切にしていきたいですね。

●絵本で遊ぼう

大好きな絵本ができると、繰り返し読んでほしいと持ってくることがあります。大人は「またか」と思わずに、子供の好きに付き合ってあげてほしいと思います。繰り返すことで理解が深まり、次が予測できるようになり、安心感からまたその絵本を楽しめるようになります。先日、2歳児のAちゃんが個別支援の時に、グループ活動で早瀬憲太郎先生に読み聞かせをしていただいた絵本を、もう一度読みたいと持ってきました。『ねずみさんのおかいもの』という、ねずみの兄弟が買い物にでかけるお話です。リクエストに応え、お母さんと3人でその絵本を読みました。最後まで読み終えたところで、「もう1回！」とAちゃんのリクエストが続きました。そんなに好きなお話ならばと、絵本の中で使われる道具やお金や食べ物のおもちゃを教室中から集めてきて、今度はAちゃんにねずみさんになってもらい絵本を読みました。店員さんとのやりとりを再現しながら、買ったものを子供用の台車にたくさん乗せて教室をぐるっと歩き回るAちゃんは、たっぷりおかいものごっこを楽しみました。

このように絵本の読み聞かせから、ごっこ遊びへと遊びを広げていくことも楽しいですね。絵本の世界を自分の体験と結び付けることができ、理解も深まります。Aちゃんのようにお話の再現とまではいなくても、絵本に出てくるものと同じ実物を持ってきて見比べる、似たものを作ってみる、絵に描いてみる等、絵本を使って遊ぶことで、絵本の楽しさをさらに味わうことができます。



●寝る前の絵本タイム

日々の忙しさの中で、ゆったりと絵本の時間をとるのにおすすめは、夜の寝かしつけの時です。毎日寝る前の5～10分間、絵本を読むことをぜひ習慣にしてほしいと思います。絵本の時間を決めて繰り返すことで、子供は自分から絵本を選んで持ってくるようになります。心も体も落ち着いて絵本の世界を楽しんだ後は、眠りにも誘いやすくなります。我が家では小学生になっても、寝る前の絵本タイムは続いています。子供が「一緒に読みたい」と言ってくるうちはぜひ続けて欲しいと思います。親子共に幸せな時間です。(文責：松澤)